

ヤングケアラーの支援体制を問う

ヤングケアラーとは、家族の介護や世話を担う 18 歳未満の子どもの名称である。

国は、昨年 12 月から 1 月にかけて初の実態調査を行い、中学生は約 17 人にひとり、高校生は約 24 人にひとりがヤングケアラーとの結果を 4 月に公表し、その後支援策を示している。

ヤングケアラーと定義される子ども達はどんなことを行っているのか、その中身は多岐にわたり、例えば、料理や洗濯などの家事、幼いきょうだいの世話、祖父母の介護、認知症の家族の見守り、親の精神的なケアを担うなどがあげられている。

ヤングケアラーは、学業や友人関係を築くなどの自らの時間や思いを犠牲にし、家族の世話や家事の担い手となっている子どもである。

さらに、コロナ禍における生活も約 2 年が過ぎようとしているが、経済的に厳しくなってしまった家庭環境を訴える町民の声を聞く。

そこで、子ども達の健やかな成長を守るために、本町においてもヤングケアラーについての実態を早急に把握し、適切な支援を行うべきである。

よって、ヤングケアラーについて次の項目を問う。

- 1 現状の認識と実態の把握は。
- 2 今後の支援体制は。